

第61回東北連合小学校長会研究協議会 福島大会 紙面にて開催

会報

第311号

岩手県小学校長会
代表 小山田 秀次
事務局 TEL019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所

第六十一回東北連合小学校長会研究協議会福島大会が、七月一日(木)二日(金)の二日間にわたり開催される予定でしたが、今般のコロナウイルス感染状況を鑑み紙面開催となりました。大会開催に向けて、これまで準備に携わってきた皆様に心から感謝申し上げます。

さて、本大会は、「自ら未来を拓きともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」をテーマとして開催いたしました。東北六県が足並みをそろえ、たくましく生き、ともにによりよい未来を創っていく子どもを育てる学校経営と校長の在り方について研究を深められたことは、小学校教育にまた新たな成果を記すこととなりました。

本県では、一関地区と釜石地区が発表予定となっております。大会要項に研究の概要が収められておりますが、本会報でも一部ご紹介いたします。

なお、各県に発表予定の映像資料等を収録したDVDが届けられましたので、ご覧になりたい方は各地区事務局までお問い合わせください。

第2分科会 評価・改善

研究課題「教育活動の活性化を図る学校評価と学校運営の改善」
【視点1】教育の質の向上を目指した学校評価・運営の構築
教育の質の向上を目指した学校評価
保護者・地域の考えや声を積極的に取り入れた学校経営改善を通して

一関市立弥栄小学校 藤田 浩人

I 研究の趣旨

学校は、教員の専門性を高めつつ、子どもの生きる力を育む質の高い教育が求められる。学校教育法第四十二条や学校教育法施行規則第六十六条においては、学校評価の実施や結果の公表、実情に応じた適切な項目の設定等が規定されている。

このようなことを踏まえ、現在の学校では「まなびフェスタ」を中心にした学校評価を行い、結果を公表している。また、経営の成果や課題、改善点を明らかにし、次年度につなげている。

しかし、学校の質の向上を目指し、地域・保護者から信頼され、さらにパートナーとして相互に連携・協働していくためには、これまでの学校評価だけでなく学校行事に対する地域・保護者の考えや声を積極的に取り入れる学校経営改善が必要になると考えた。

そこで本研究では、従来の学校評価に加え、地域・保護者の考えや声を積極的に取り入れた改善を図ることにより、教育の質の向上を目指した学校評価の在り方と校長の果たすべき役割について探ることとした。

◎一年次で確認できたこと
○学校評価計画の一例

II 研究の概要

一 研究のねらい

現在各校で行っている学校評価に加え、行事等に対する地域・保護者の考えや声を積極的に取り入れた改善により、教育の質の向上を目指した学校評価の在り方と校長の果たすべき役割について明らかにする。

二 研究の経過

(一) 一年次(令和元年度)

ア 研究推進の方向性の確認
イ 学校評価の実践及び地域・保護者の声を経営改善に生かした事例の交流

1 学校評価計画				
時期	内容	対象	方法	公表・活用等
12月	授業参観の感想	保護者	連絡帳	・学校週刊で紹介
1月	■授業参観後の全体会で、保護者と児童の二学期のまなびフェスタの結果を報告する。二学期のアンケートの自由記述欄に記載されている学校に対する要望等についても回答する。			
	■校長が次年度の学校経営方針と重点の原案を発表する。			
	■分掌ごとに、まなびフェスタの内容、評価の観点、目標達成度検討し原案を作成する。(学ぶ子ども一研究部、助け合う子ども一教務部、きたえる子ども一指導部)			
	■校長の経営方針と重点の原案を受け、各担当が次年度計画を立案する。			
学校関係者評価		学校評議員	学校評議員会	・評議員の意見を次年度計画に反映
		■評議員会の意見を反映させ、校長の経営方針と重点、まなびフェスタを決定する。		
		■次年度計画を会議で決定する。		

三月 計画完成

二月 次年度経営方針

十一月 授業参観感想

十月 結果公表

九月 学習発表会感想

八月 分掌反省

七月 アンケート作成

六月 アンケート実施

五月 運動会の感想

四月 授業参観の感想

三月 授業参観の感想

○校長の役割

・まなびフェストを中心に据え、PDCAサイクルを取り入れながら、よりよい学校経営を目指すこと

・学校評価に対して学校評議員の意見を求め、地域の考えを取り入れた経営を図ること

・保護者から寄せられた声に耳を傾け、次年度の構想に生かせる点を判断した上で価値付けし、学校運営の改善に努めること

校長のスタンス

- (1) まなびフェストを中心に据え、PDCAサイクルを取り入れながらよりよい学校経営を目指す。
- (2) 学校評価に対して学校評議員の意見を求め、地域の考えを取り入れた経営改善を図る。
- (3) 保護者から寄せられた声に耳を傾け、学校運営の改善に努める。

(二) 二年次(令和二年度)

ア 研究概要の確認と実践課題を踏まえた改善案の構想

イ 改善案に基づく実践

ウ 実践内容、成果と課題の交流とまとめ

(三) 三年次(令和三年度)

ア 実践と事例についての分析

イ 研究のまとめ

三 研究の内容

(一) 学校評価と各校独自の取組の交流

(二) 新型コロナウイルス感染症に関わる、五校(一関・南・舞川・滝沢・弥栄)共通アンケートの実施と結果の分析

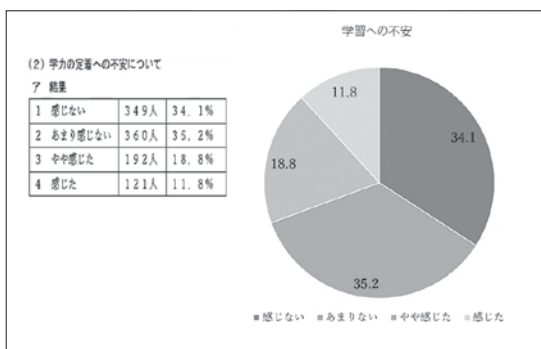
ア 家庭における予防の取組について
イ 心への影響について

○アンケート「心への影響」から読み取れること

○ストレスありの回答は二割弱だったが、行動の制限や感染者への差別などについて大きな不安を抱えていることが分かった。

心へのケアについて学校・保護者が一体となつて取り組む必要がある。

ウ 臨時休校に伴った学力の定着に対する不安について



○アンケート「学習への不安」から読み取れること

○約三割が不安を感じていた。学習内容の理解や進捗についての他に、家庭

学習に取り組めていないことやメディアコントロールができていない不安についての記述が多かった。

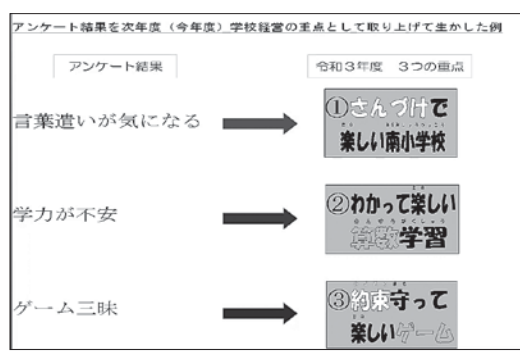
エ 情報発信について
オ 感染症対策に対する意見

(三) アンケート分析を生かした次年度構想

○今後の学校改善に反映すべき課題

・心のケアやいじめ
・差別的見方
・学習内容の理解や進捗
・家庭学習の取組
・メディアコントロール

○アンケート結果を生かした例(南小学校)



○授業と家庭学習について

○業務主任を中心としたプロジェクトチームを組み、計画立案した例(南小学校)

1 ねらい
・自らの学びをマネジメントする力を育てる。

2 学習内容(複習+自主学習・3年生以上)

宿題	自主学習1	自主学習2
・学校での学習の補完的な内容 ・復習的な内容 ・毎日繰り返すドリル的な学習	・授業の予習・復習 ・自主的な問題演習 ・南小テストの練習	・自分の興味・関心に基づいて取り組む課題 ・授業で学習したこと的发展 ・図書や新聞等を活用した調べ学習

※算数を中心に主題研究(説明する活動)を活かしたノートづくりの指導を行う。
(問題・式・答え・図など)

3 手引き・ノートフェスティバル・ぐんぐん通信
・毎月25日にノートの写しを学年1点貼りだし見合う。
・賞を与え、ぐんぐん通信で紹介することで意欲化を図る(1・2年生もプリント等の写しを貼る)
・学習の手引き、ぐんぐん通信では、保護者への啓発も図る。

1 ねらい
・子ども達にとって分かりやすく魅力ある授業を創造していく

2 取り組み内容→※交流の機会を設ける(職員会議)
【授業改善10の取り組み～』授業参加の手立て～】

【かわ】

- 1 興味関心を引く課題や教材の設定
- 2 ねらいに応じた学習課題の設定

【かんがえる】

- 3 自分の考え、理由(根拠)を書く場を設定する
- 4 キーワード(重要語句)を板書で分かりやすく示す
- 5 グループ学習の位置づけ

【ふりかえる】

- 6 ふり返りの時間確保
- 7 評価問題で個々の達成状況を確認する

【授業づくり全貌】

- 8 簡潔な指示・発問・説明
- 9 アウトプットの場合(説明する学習活動を多くする(主題研究とのつながり))
- 10 学習規律の確立

Ⅲ 研究のまとめ

一 成果

(一) 教育の質の向上に迫るためには、地域の多様な声に接する機会を積極的に設定し、改善につなげることが有効であることが分かった。

(二) 新型コロナウイルス感染症予防に関する共通アンケートの分析を通して、次年度の学校経営や実践に生かすべき課題を共有することができた。

(三) 年度末の学校評価の機会を待たず、学校経営や行事等についてのアンケートを実施することにより短いスパンでのPDCAが可能であることが分かった。

二 課題

(一) 得られた情報を教育の質の向上につなげるために、どう内容を精選し、家庭や地域に発信していけば効果的かを明らかにすること。

(二) 得られた様々な声について具体的な実践につなげるために、校長として果たすべき役割について更に探ること。

第7分科会
学校安全

研究課題「安全・安心な学ぶ環境づくり」

【視点1】自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育の推進

自ら判断し行動できる子どもを育てる

安全教育・防災教育の推進と校長の在り方

教職員の共通理解と研修の充実、家庭・地域との連携を通して

釜石市立白山小学校 熊谷直樹

Ⅰ 研究の趣旨

東日本大震災・津波から十年目を迎え、釜石・大槌地区内の小学校・義務教育学校では、校庭に立ち並んでいた仮設住宅が撤去された。被災した学校は、新校舎となり通常の教育活動が当たり前のように行われ、元氣よく校庭を走る子ども姿が見られるようになった。

子どもたちが安全・安心に学ぶことができるような環境を整え、安全で安心な社会づくりに進んで参加し貢献できる資質・能力を育てることは、学校教育の重要な目標の一つである。

また、学校安全を推進するため、家庭、地域社会や関係諸機関と連携しながら子どもたちが安全な生活を自らの力で構築することのできる資質

能力を育成し、身に付けさせることが重要になっている。

本研究は、これまで釜石・大槌地区の各小学校で取り組んできた学校安全（安全教育・防災教育）の成果と課題について「自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育の推進」という視点で見直し、校長として求められる役割と指導性を明らかにしようとするものである。

Ⅱ 研究の概要

一 研究のねらい

「自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育」を推進するために、校長として求められる役割と指導性を明らかにする。

二 研究計画

令和元年度から三年次計画で、学校安全に係る実態調査

をもとに分析した各校の実践から、成果と課題をまとめる。

三 研究の内容

(一) 学校安全に関する実態調査とその分析

(二) 各学校の安全教育の見直しと課題解決に向けた取組の方向性の確認

(三) 課題解決に向けた実践研究の成果と課題

(四) 研究の実際実態調査

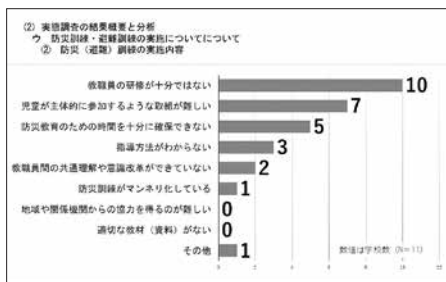
ア 東日本大震災での被害状況

イ 学校安全計画

ウ 防災訓練・避難訓練の実施について

エ 学校安全を推進する上で必要な設備や備品について

(二) 調査結果の概要及び分析



(三) 課題解決に向けた取組の方向性

ア 教職員の共通理解と研修の充実

- ・事故防止や危機管理マニュアル等、学校安全に関する教職員の確かな共通理解

- ・教職員の学校安全に関する資質・能力を向上させるための研修

イ 地域や関係機関との連携

- ・家庭、地域の実態や保護者・地域住民の意識等の情報収集

- ・PTAや関係機関、地域ボランティア等との連携・協働による安全に関する取組の推進

(四)

- ア 課題解決に向けた実践
- ア 教職員の共通理解と研修の充実

◎釜石市立双葉小学校

- ・住宅地と国道二八三号沿いの商店街が混在した地域で、交通量が多く、児童の交通安全指導や同対策が最重要課題

- ・平成三十一年三月『中妻地区見守り隊』が結成

①集団下校

- 児童の通学路の確認と危険箇所の点検および安全な下校の仕方

・校長の役割

- ・実施計画のチェックと指導助言、見守り隊への協力依頼、改善点について担当と協議

②不審者侵入訓練

・ねらい

- ・教職員の対応の確認と緊急時の避難の仕方
- ・校長の役割

- ・訓練実施後、「防災危機管理マニュアル」の見直しを計画的に進めること



③成果

- ・児童の安全や安心を守る責任が教職員にあることを再確認したこと

④課題

- ・休み時間や清掃時などの訓練を実施し、自ら判断し、主体的に行動できる力を育てること

- ・想定外の事態にも適切な対応が求められること
- イ 地域や関係機関との連携

携

◎釜石市立白山小学校

- ・釜石湾を眼下にする高台に位置し、学区の半分は東日本大震災津波により被災

- ・急傾斜地が多く、土砂災害の危険性が特に高い区域に指定され、平成十四年、土石流の被害が発生した地域

①防災マップ作成

・ねらい

- ・防災マップ作成を通して児童の防災意識を高める

・校長の役割

- ・職員の意識と指導力の向上のため、重点について共通理解を図り、学習の充実を図る

・連携機関

- 釜石市危機管理課

②成果

- ・児童の防災意識を高め、地域に発信することで、

- 主体的な取組を促すことができたこと

③課題

- ・家庭や地域と連携した継続的な取組

- ・効果的な防災教育の教材化を図り、避難行動や日常の活動につなげていくこと



(五)

- 実践事例のまとめ
- 校長として求められる役割について

- ア 安全教育計画及び危機管理マニュアルの見直し
- イ 安全教育における重点事項の見直し

- ウ 職員の危機管理に対する意識向上を図る

エ 関係機関との連携・調整

Ⅲ研究のまとめ

一 成果

- (一) 実態調査や情報交換を行うことで、今までの安全教育の反省を生かし、実態に応じて実践することができた。

(二) 校長として積極的にかかわること

- ・ことで、教職員と共通理解を図り、指導に生かすとともに、学校と地域の連携の重要性を改めて確認することができた。

二 課題

- (一) 研究で明らかになったことについては、これからの各校の実践に生かしながら、継続的に検討を加えていく必要がある。

- (二) 様々なケースを想定し、地域の実態に応じながら、計画的に安全教育を教育課程に位置付け指導していく必要がある。



未来を切り拓く 心豊かでたくましい日本人を 育てる花巻の教育

花巻市校長会

一 はじめに

花巻市校長会は、小学校十七校、中学校十一校で組織されています。令和二年度末に亀ヶ森小学校と内川目小学校が閉校して二校減となりました。平成十八年の市町の廃置分合当時は、小学校二十六校、中学校十二校あり、当時から十校も減ったことになりました。

校長会の組織としては、総務部・研修部・学校経営部・行財政部・広報厚生部の五部で構成され、別に小学校部会・中学校部会と校種に別れて協議や情報交換等をしています。

(一) 主題研究

今年度もコロナ禍のため、視察研修、学校経営研究会、教職専門研修講座を中止とし、更に研究発表会と学校経営研修会について、昨年同様一日のプログラムで実施することとしています。

校長会の組織としては、総務部・研修部・学校経営部・行財政部・広報厚生部の五部で構成され、別に小学校部会・中学校部会と校種に別れて協議や情報交換等をしています。

主題研究は小学校二部会、中学校部会の三部会で進めています。「未来を切り拓く心豊かでたくましい日本人を育てる花巻の教育」を当校長会の研究主題と設定し、更に、県小・中学校長研究大会の研究課題・趣旨・視点に基づき、部会にテーマを割当てています。紙面開催となった昨年度の第五十七回岩手県小・中学校長研究大会花巻大会が、昨年までの主題研究のまとめとなり、令和三年度から新しい研究課題に取り組んでいます。

部会別研究課題
① 小学校第一部会
花巻小・若葉小・湯口小・矢沢小・太田小・新堀小・八重畑小・東和の小の八校で構成され、研究領域Ⅰ、学校経営第一分科会「経営、組織・運営」の視点②に取り組みます。

研究課題は、「目指す学校づくりと組織・運営の活性化」として、教職員の参画意識を高揚する活力ある組織・運営について研究を進めていきます。

② 小学校第二部会

桜台小・南城小・湯本小・宮野目小・笹間第一小・笹間第二小・大迫小・石鳥谷小・八幡小の九校で構成され、研究領域Ⅴ、教育課題第十分科会「社会との連携・協働」の視点②に取り組みます。

研究課題は、「家庭・地域・異校種等との連携・接続の推進」として幼保・小・中などの連携と円滑な接続のための組織的な取組の推進について研究を進めています。

イ 今後の発表予定

小学校第一部会は、令和四年度釜石大会・東北連小岩手大会での発表を、小学校第二部会は、令和六年度二戸大会での発表を予定しています。

(二) 研究発表会

今年度は一月二十一日の実

施を予定し、午前に小・中学校合わせて三本の研究発表と質疑を行います。

(三) 研究集録

各部会研究のまとめの他、例年であれば視察研修の記録としてまとめられた報告書も掲載しています。

(四) 学校経営研修会

昨年、研究発表会の午後に同じ会場で前陸前高田市教育長の金賢治氏の講演会を実施しました。研修部と学校経営部のそれぞれの事業を合同で運営することにより、六人で担当していたものが十二人で二つの事業の準備や片付けができ、効率的に、そしてスタッフにゆとりをもって運営できました。

講演内容の素晴らしさに加え、音響やピアノ等講師先生の要望にも応えることができ、一層充実しました。昨年度の運営のよさを取り入れて今年度も同様に計画しています。

(五) その他

昨年、そして今年も中止した内容については、研究部や学校経営部等各部の活動計画に残し、今年度に当校長会の会員となった方にも、来年度新たに会員となる方にも分か

るように留意しています。これは、当校長会事務局から示される資料等についても同様で、校長会事業や関係諸団体の会議や関係行事の参加状況等、開催されるものや中止となったものが分かるように記載されています。

三 おわりに

各校では、花巻市・花巻市教育委員会のご指導の下、今年度も新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながらの教育活動を展開しています。昨年一学期は自粛ムードだった活動が、二学期から新しい生活様式に則り、実践してきたことが今年度役立っています。

校長会での情報交換で様々なアイデアや考え方を知ることが、自校に戻ったときの参考になっています。今年も部会研究で主題研究を進めながら、貴重な意見や情報交換ができることを期待しているところです。会員相互が高め合い考えを広げることが、先生方の安心感に、そして、それが子どもにとっても大切なことだと考えます。

(花巻市立湯口小学校

佛川 恒明)

二 研修計画の概要
当校長会では、主題研究、研究発表会、研究集録の作成、視察研修を研修部が担当し、学校経営研究会、学校経営研修会、教職専門研修講座を学校経営部が担当しています。

新たな教育課題への対応

子どもたちの笑顔のために

～教育活動と感染対策の
両立を目指して～

宮古地区

新型コロナウイルス感染症の終息の兆しは未だ見えない。様々な制限が課せられたことで、それまで当たり前に行ってきた教育活動が途端に難しくなった。未だに、何ができるのか、どうすればいいのか判断が求められている。

昨年度は、当初一学期に予定していた運動会、修学旅行、自然教室等の主要な行事を二学期に延期し、学習発表会は実施を見送ることとした。体育館を使う儀式等は学年で分けて実施し、参観日も

二日間での開催とするなど、行事一つをとっても感染症対策に苦慮した。日常の教育活動はもちろんであるが、行事の実施には、どの学校も頭を悩ませたことだろう。

担任からは、当然のように教育活動が大きく制限されたことによる指導の難しさが反省として出された。一部保護者からは、他校でできていることがなぜできないのかと厳しい意見が寄せられた。何より、子どもたちが伸び伸びと活動できない状況や閉塞感を打開したかった。

そこで、昨年度末の「令和三年度学校経営計画策定会議」において、以下のような方針を進めていくことを全職員で確認した。

学校としての働きを取り戻すために、経営の基本に立ち戻り、状況を見極め、豊かな学びのための方策を探りながら、教育活動を推進する。

一 ねらいと見通しをもった

各学期の経営

一学期：学校経営、学年・

学級経営の基盤をつくる。

二学期：一学期を基に、経営の向上を図る。

三学期：経営を充実させ、次年度につなげる。

そして、諸活動の実施にあたっては、「状況判断と方針の決定」「実践」「改善」をサイクルとし、状況に応じてながら効果のある取組につなげる。

二 充実した学びを支えるための安全確保、教育環境の維持向上

感染症対策の継続、事故の予防、施設や備品の管理充実等、安心して教育に打ち込める環境づくりに努める。

これまでの取組から、新型コロナウイルス感染症対応で大切なのは、職員、保護者と共通理解であることを痛感している。そこで、職員には、「学校の新しい生活様式」等のマニュアルや通知に関する、また、身近に感染が確認された際の対応に関することの周知と確認に努めている。年齢や分掌によら

ず、一人一人が経営の一端を担い、基盤づくりに取り組んで欲しいからである。また、保護者には、感染対策上、従来と異なる教育活動となる場合には、丁寧に説明し、理解を求めるようにしている。

一学期を振り返ってみる。日常の教育活動は、無理のない感染対策の上で取り組んでいる。また、職員は、昨年度の経験を生かし、落ち着いて子どもたちの指導に当たることができていた。

昨年度延期した運動会・自然教室・修学旅行を実施できた。そこでも、職員の経験が生かされた。例えば、半日開催の運動会は、今年度は、リレーを実施することができた。会場の設定や競技方法、係間の流れを見直すことで、およそ二十分を捻出できたからだ。子どもたちにも、保護者にも好評だった。

また、修学旅行も、直前まで旅行業者と連絡を取り合い、思い切った日程の変更に、活動の充実と接触リスクの回避に努めた。子どもたち

の笑顔が何よりうれしかった。

さらに、合唱やスクールバンド等の特設クラブの活動も軌道に乗ってきている。

一方で、集団での学びの手立てを充実させること、職員の危機管理意識を高めること、保護者との共通理解を深めること、地域との連携を取り戻すことが課題である。

これまで、何度もコロナ対応で悩むことがあった。そんな時に、心強かったのが宮古市校長会の存在である。校長会議後や校長研修会等に行われる情報交換は、とても役立つ。学校規模は異なり、それぞれに抱える事情はあったりするが、経営に関することから諸行事の実施方法まで共有できることは何よりありがたい。

長い二学期が始まる。どのような状況となっても、子どもたちの学びの喜び、笑顔のために、全職員で知恵を絞って経営にあたっていきたい。

(宮古市立千徳小学校

佐々木 優)

気仙地区(綾里小の実践から)

資料：集会後の振り返りカード

「3・11 震災」をつくり継げるためのアンケート (R3 3 11)
(対象学年 3年以上)

6年 名前

このアンケートは、これからの「3・11 震災」をよりよい会にしていこうと考えているアンケートです。

大きくわけて、二つのことを考えます。(1・2 年は、一つめだけです)

一つめは、今日の「3・11 震災」についてです

(1) 今日の校長先生のお話を聞いて、あなたはどんなことを思ったり、考えたりしましたか。

聞いて津波はおそろしい災害だなと思いました。写真や校長先生の話を聞かざり、たくさんの方が苦勞し被害にあつてもう東日本大震災のようなことは起きないように起つてもいいかなと思います。町や家やうしろになるほどの地震津波。私だったら生きることをおさめようと思つてしまいます。でもうしろなんぼなる。このことを後世に伝えたいかな。いかなんかになんか。少しでも被害者と話をするためにできることをやさない。いかなんか。いかなんか。死んでしまった人が無た死なな。いかなんか。

(2) 東日本大震災の話を聞いて、あなたはこれからどのように生きていこうと考えましたか。

(1)にもかいた通り、利和後世に伝えてい。次の災害は被害者を少しでも減らしていきたいです。なので3月11日。なたら午前に午下の手来までできるかもしれない。友達。子ども。新切に伝えてい。防災。バクにはい。津波ばかり。い。よくに。こんの。食料。水。生。お。持ち。つ。品を。ら。かり。お。ん。で。生。きたいです。また被災したところに行き。できる。か。りの。う。ン。テ。ア。を。して。被害にあつた人。を。望。望。し。て。人。を。少。し。も。お。つ。な。り。生。きたいです。このようなことを利和は考えました。

事務局日誌抄

- 4 月 23 日 第 59 回岩手県小学校長会総会・研修会（盛岡市都南文化会館）
第 1 回理事会・第 1 回評議員会合同会議（盛岡市都南公民館）
第 1 回各部担当理事、地区担当者・専門委員合同会議（総務部、行財政部、研修部、広報・編集部、生徒指導部）（盛岡市都南公民館）
- 28 日 岩手県公立学校退職教職員互助会監事会（岩手教育会館）太田前会長出席
- 5 月 7 日 岩手県 PTA 連合会理事会（岩手県青少年会館）石橋前副会長出席
- 11 日 東北連小岩手大会準備委員会専門部会打合せ会（都南公民館）
- 14 日 東北連小第 1 回理事会・研修会（リモート）小山田会長、遠藤副会長、紺野部長、石亀書記、山戸書記出席
- 18 日 全連小第 238 回理事会（リモート）小山田会長、遠藤副会長、紺野部長出席
- 19 日 全連小第 73 回総会（リモート）小山田会長、遠藤副会長、紺野部長出席
- 6 月 3 日（公財）日本教育公務員弘済会岩手支部教育研究助成金交付式（サンセール盛岡）小山田会長出席
- 5 日（一社）岩手県 P T A 連合会定時社員総会（サンセール盛岡）遠藤副会長出席
- 11 日 第 2 回理事会（盛岡市勤労福祉会館）
第 1 回東日本大震災対策特別委員会（盛岡市勤労福祉会館）
東北連小岩手大会第 1 回準備委員会（盛岡市勤労福祉会館）
- 14 日 東日本大震災被災地視察訪問（山田町立船越小）小山田会長、紺野部長、佐藤部長、後藤部長
- 15 日 東北連小第 1 回教育課程委員会（リモート）後藤部長出席
東北連小岩手大会準備委員会第 1 回専門部会（松園公民館）
「いわて教育の日」推進協議会役員会議（岩手県公会堂）小山田会長出席
- 25 日 東日本大震災被災地視察訪問（釜石市立白山小学校）小山田会長、遠藤副会長、吉田部長、和田部長
- 7 月 6 日 東日本大震災被災地視察訪問（陸前高田市立高田小学校）遠藤副会長、紺野部長、後藤部長、和田部長
- 8 日 全連小被災三県校長会長合同連絡会（リモート）小山田会長出席
- 9 日 全連小小学校長会長連絡協議会（リモート）小山田会長出席
- 13 日 第 73 回全国植樹祭岩手県実行委員会第 4 回総会（サンセール盛岡）小山田会長出席
- 26 日 東北連小岩手大会準備委員会第 2 回専門部会（サンセール盛岡）
- 27 日 岩手県教育委員会へ要望訪問
- 29 日 現職・退職両校長会幹部懇談会（サンセール盛岡）小山田会長、遠藤副会長、紺野部長出席
- 8 月 5 日 岩手県学校生活協同組合事業内容説明会（ホテルメトロポリタン本館）常任理事出席
- 19 日 第 21 回全国中学校総合文化祭岩手大会開会式（岩手県民会館）小山田会長出席
- 27 日 第 58 回岩手県小・中学校長研究大会釜石大会打合せ（サンセール盛岡）
- 31 日 岩手県幼児教育推進連携会議（リモート）小山田会長出席
- 9 月 17 日 第 3 回理事会（サンセール盛岡）
東北連小岩手大会第 2 回準備委員会（サンセール盛岡）

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大のため一年延期された東京オリンピック・パラリンピックが、ようやく開催される今年、第六十一回東北連合小学校長会研究協議会福島大会が、七月一日（木）二日（金）の二日間にわたり開催される予定でした。奇しくも紙面開催を余儀なくされた本大会の副主題は「ふるさとを愛し、志をもつて自ら新しい社会を切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」。この副主題のもと、本県からは一関地区が「第二分科会」で、釜石地区が「第七分科会」で誌上発表を行いました。一堂に集結して研究発表を直に拝聴することは叶いませんでしたが、「東北は一つ」のスローガンを感じ入る大会要項、DVD が届いております。ぜひ、ご覧いただきたいと思ひます。

今年度は、「復興教育の取組」に代わり「新たな教育課題への取組」について各担当地区から原稿をお寄せいただいております。また、福島大会へ資料を提供した一関地区と釜石地区からは、本号のために新たに原稿を執筆していただきました。ご多用の中、貴重な原稿をお寄せくださいました先生方に心より感謝申し上げます。

（担当 吉田久美子）